

益田市遠田地区遺跡分布調査報告書II

1987年度

1988. 3

益田市教育委員会

益田市遠田地区遺跡分布調査報告書 II

1987年度



大元 1号墳

例　　言

1. 本書は、1987年（昭和62年）度国庫補助事業として益田市教育委員会が実施した益田地区遺跡分布調査の要報である。

2. 調査は島根大学考古学研究室及び島根県教育委員会文化課の指導と協力を得て次のような組織で実施した。

調査主体　益田市教育委員会教育長　水上係市

調査指導　島根大学法文学部教授　田中義昭

　　"　島根県教育委員会文化課文化財保護主事　ト部吉博

事務局　益田市教育委員会社会教育課長　桐田泰治

　　"　社会教育課係長　大庭清弘

　　"　社会教育課主事　田中　智

調査員　益田市教育委員会社会教育課主事　木原　光

3. 調査に伴い下記の方々の参加・協力を得た。記して感謝する。

新海正博、秋森貴則、松尾晴司、河村創造、西尾秀道、林原修、物部茂樹

（以上島根大学）、後藤和正（別府大学）、田村伸之（立命館大学）、池野裕二（山口大学）、松本岩雄（島根県教育委員会文化課主事）、高橋好市、藤本歓

4. 大元古墳群の測量にあたっては土地所有者である大島敏、大谷寿雄、沢江喬、高橋好市の各氏から快諾を得た。記して感謝の意を表わしたい。

5. 遺跡にはそれぞれ番号を付し、本文、遺跡分布図を通じて統一した。また「全国遺跡地図—島根県—」に登載されているものについてはその遺跡番号も示した。

6. 参考文献は文末に一括して掲載し、引用はその番号のみで示した。

7. 地図内の方位は磁北を示している。

8. 本書の編集、執筆は木原が行った。

目 次

1.はじめに.....	1
2.調査の概要.....	2
3.各遺跡の概要.....	3
1.安養寺跡.....	3
2.杜山古墳.....	3
3.吉ヶ瀧古墳.....	4
4.三反田遺跡.....	5
5.辻遺跡.....	5
6.茶屋床遺跡.....	5
7.高内古墳.....	5
8.寺田遺跡.....	6
4.大元古墳群測量調査.....	7
5.おわりに.....	8
6.遠田地区遺跡一覧表.....	9

挿 図 目 次

第1図 益田市位置図.....	1
第2図 遠田町位置図.....	2
第3図 吉ヶ瀧古墳周辺遺跡分布図.....	4
第4図 高内古墳周辺遺跡分布図.....	6
第5図 遠田町遺跡分布図	
第6図 大元古墳群墳丘実測図	

1. はじめに

益田市は面積302km²、人口約5万4千人を抱える商業都市として、島根県内8市の中で最も西に位置する。高津川と益田川の二大河川によって形成された石見における最大の平野を擁し、市域の東は那賀郡三隅町と美濃郡美都町に、南は匹見町、鹿足郡日原町、津和野町に、さらに西は山口県と接し、北は日本海に面している。

また、津和野を経て山口市に向かう国道9号線と、北長門海岸国定公園の日本海沿いを下関に通じ、さらに中國山地を横断して広島県の加計に至る国道191号線が交わり、山陰本線と山口線の分岐点にあたるなど交通の要衝でもある。しかし、一方で現在の島根県西部地域は幹線高速交通網から外れているため、高速交通の空白地帯とも言われてきた。そこで昭和40年代後半から構想が徐々に具体化してきた石見空港が昭和62年に遂に設置認可となり、昭和68年の供用開始を目指し、益田市の大プロジェクトとして推し進められつつある。

さて、この恵れた地勢によって益田市には古くから数多くの遺跡が存在している。縄文時代以降中世までの遺跡は200以上を数え、特に古墳時代には、大元1号墳、史跡スクモ塚古墳、小丸山古墳、県史跡鶴ノ鼻古墳群など前方後円墳が連続と築かれている。また中世には、関ヶ原役で毛利方についたため須佐に転封となるまでの20代約400年間にわたり益田氏が石見の雄として七尾城に拠り、関連する山城跡も多い。

しかし一方では、近年の市街化や大型開発事業などにより益田市の埋蔵文化財は危機的な状態にあり、とりわけ遠田町は昭和49年度より国営総合農地開発事業の一環として益田開拓事業が開始され、大規模な農地造成と圃場整備によって数多くの遺跡が危険にさらされているともいえる。

このような状況の中で、益田市教育委員会は、今後の開発と埋蔵文化財保護との調整を円滑にするための基本資料を整備する目的で、遠田地区における遺跡の分布状況を把握すべく国庫補助を得て昭和61年度に分布調査に着手した。調査は昭和63年度までの3ヶ年継続で実施する予定であるが、今回の調査はその2年度めにあたるものである。

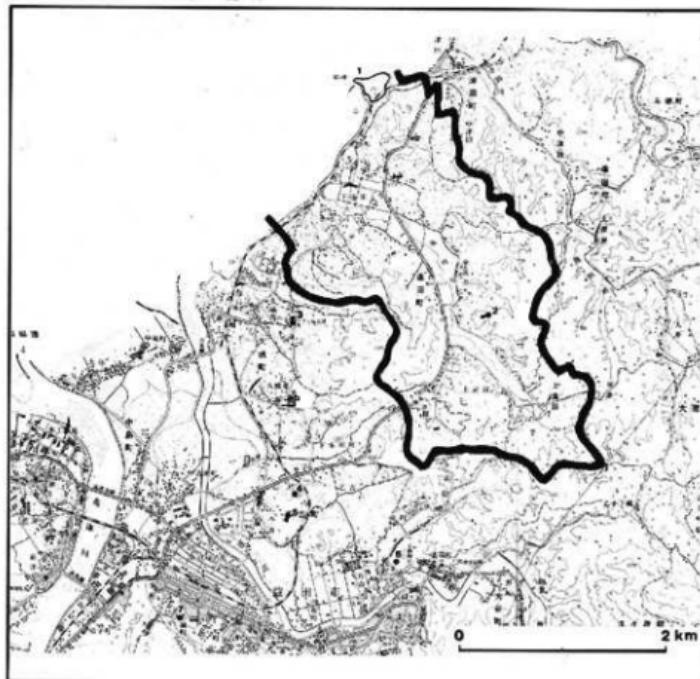


第1図 益田市位置図

2. 調査の概要

遠田町は益田平野から久城及び乙吉の丘陵地帯を隔てた東側に位置し、面積は約4.27km²である。全長3kmあまりの小河川である遠田川によって形成された河岸段丘と複雑に張り出す舌状の低丘陵から成り、その間には大小の谷が刻まれている。また、国道9号線以西に広がる遠田川下流域はごく平低の水田地帯であり、北は日本海に面する。

さて、昨年度は遠田川右岸の丘陵地を対象に調査を実施した結果、新たに発見された8遺跡を含めて22箇所において遺跡を確認することができたが、今年度は遠田川左岸を調査対象として、周知遺跡の確認と新たな遺跡の発見に努めた。北は市道竜田線の西を市道中島・津田線まで、さらに双葉の集落から遠田隧道までの国道9号線と市道原線の西側、



- 1. 鶴ノ鼻古墳群
- 2. 大元古墳群
- 3. スクモ塚古墳
- 4. 三角縁神獣鏡出土土地
- 5. 小丸山古墳
- 6. 片山横穴群
- 7. 北長迫横穴群

第2図 遠田町位置図

加えて上遠田を横切る県道益田・種・三隅線の南側にあたる丘陵地を重点的に踏査した。また、分布調査の他に大元古墳群の墳丘測量も昨年度から継続して実施した。

調査は昭和62年8月に大元古墳群の伐採及び草刈り等の準備作業を行い、9月下旬から10月の始めにかけて墳丘測量と踏査を実施し、昭和63年1月にも継続的に踏査した。

以下、今年度の調査で明らかにされた遺跡の概要を述べる。

3. 各 遺 跡 の 概 要

1. 安養寺跡 (第3図23) 益田市遠田町寺坂字安養寺 島根県遺跡番号1685

県道益田・種・三隅線は東町で国道191号線から分かれ、谷上の集落を経て黒石の峠を越え上遠田から大草町へ向かうが、安養寺跡はこの県道沿いに位置する。市道黒石・神山線の分歧点から東へ約100mのところでさらに大草方面へ向かうと左手に役田堤があり、水田を隔てた南の丘陵には黒石八幡宮がある。

さて、遠田川の水量は極めて少ないため、遠田地区には農業水利として大小500にのぼる堤(溜池)が存在する。古代において、このような水利の悪い遠田の開拓に着手したのは坂ノ上氏といわれ、一族の並良なる人物が遠田川の上流に灌溉用の堤を築き、その西に水神を祀る壇遼瀧訪神社を建立したとの伝説がある。なお、黒石八幡宮のすぐ南には遠田地区内でも最大規模の堤があり今日でも並良堤と呼ばれている。

安養寺はこの並良の子孫によって奈良時代に堤の東側に建てられたといわれているが、その造営時期や規模などについては不明で今のところ確証はない。今回の調査でも安養寺の地名を確認したにとどまっている。⁽¹¹³⁾

なお、この安養寺は後に坂ノ上氏が都茂鈴山に移った際にともに移転されたと伝えられている。

2. 杜山古墳 (第3図24) 益田市遠田町黒石字桑ノ木 島根県遺跡番号1689

杜山古墳は並良堤と県道益田・種・三隅線に挟まれた北へ伸びる丘陵の西寄り中腹に立地する。県道沿いの大町堤の所を東に分れるとやがて丘陵の尾根を切り通した三叉路となるが、古墳はその南側にあたり、民家のすぐ背後に位置し、標高約65mの西へ張り出す平坦地に築かれている。

古墳は直径約7.5m、比高1.2mの円墳である。盗掘の痕跡はなく、周間に杭が巡ら

され、全体が笹におおわれている。周辺は荒地だが、北側には畠地があり、古墳裾部まで耕作されている。これまでに遺物は発見されていない。古くから地元の人々によって神聖視され、かつ畏れられてきた古墳である。

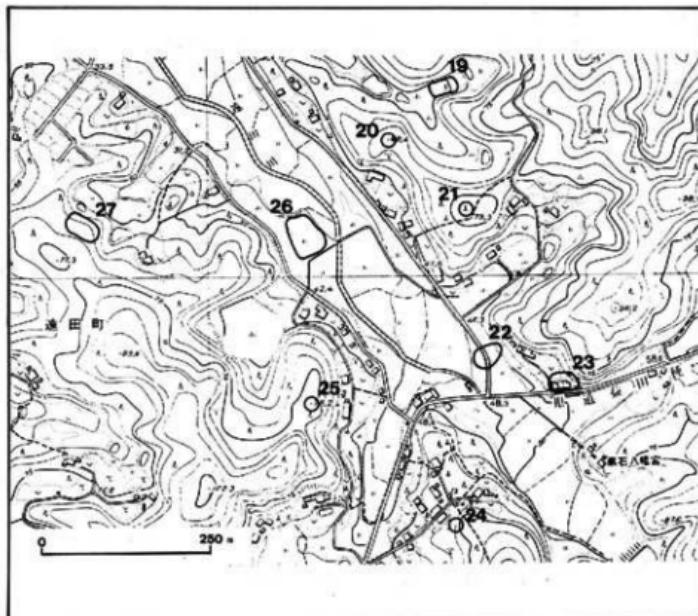
なお、「安田村発展史」、『益田市誌』ではともに丘陵東南斜面に立地するとあるが、これは南西斜面の誤りであろう。

3. 吉ヶ溢古墳 (第3図25) 益田市遠田町黒石字吉ヶ溢

杜山古墳から水田を隔てた西の標高7.8mあまりの丘陵上に立地し、上遠田を一望できる好所を占めている。

規模は直径1.05m、比高1.5mの小円墳で松林中に良好に保存されているが、西側は山陰豪雨災害に伴う激特治山事業のために裾の一部が失われている。さらに、東側の一部がなだらかに丘陵斜面に流れるが全体的に明瞭な墳丘が残されている。

なお、古墳の東7~8mには文化年間及び明治年間の近世墓地が存在する。



第3図 吉ヶ溢古墳周辺遺跡分布図

4. 三反田遺跡 (第3図26) 益田市遠田町黒石字三反田

遺跡は、国道9号線から分れて上遠田へ続く市道原線の中ほどあたり、遠田川との間に広がる水田中に立地する。遠田川によって形成された河岸段丘上に、かつては三斗田とも呼ばれていたらしい。しかし、遠田川沿いの水田地帯はすでに圃場整備を完了しており、この三反田遺跡も旧地形をとどめていない。

(1)
さて、「安田村發展史」によればかつてこの地から須恵器片が出土した記録がある。器形、数量については全く不明であり、今回の調査で新資料を追加することはできなかった。

(4)
なお、「全国遺跡地図一島根県一」等によれば、この周辺に三百田遺跡が存在するが、文献にも三百田の地名は見当らず、聞き取り調査でも確認できず終わった。あるいは三反田を三百田と読み誤って現在に至った可能性も考えられる。

5. 遠田遺跡 (第3図27) 益田市遠田町双葉字社

国道9号線と市道原線に挟まれて北へ伸びる丘陵の先端西斜面には国東住宅団地があるが、さらにその奥まった高所に昭和62年益田地域医療センター医師会病院が建設された。遺跡はその病院の背後、北東向きの斜面に立地する。なお、この丘陵の西側は尾根を境に大規模な造成が行われ、現在では果樹園となっている。

遺物は古銭一枚が採取されたが、腐食のためその種類はわかつてない。斜面にはかなり広い平坦地があり、何らかの屋敷跡も推定できるが、今のところ詳細は不明である。

6. 茶屋床遺跡 (第4図28) 益田市遠田町茶屋床

国道9号線は益田市街から遠田隧道を抜けて遠田町の西側丘陵地の裾を走り浜田市へと至るが、遺跡は中遠田の国道沿い西側に位置する。馬場橋を渡り遠田川右岸の集落へ至る中遠田線との交差点から北へ約75mの距離で、西に入り込む小さな谷の北寄り斜面にある。

今回の調査によって、宅地に開れた畠地から近世の陶磁器片に混り、須恵器の細片若干が採取された。器形については不明だがナデ痕の残るものがあった。しかし、遺跡の範囲、性格等については不明と言わざるをえない。

7. 高内古墳 (第4図29) 益田市遠田町高内

茶屋床遺跡から国道を約300m北上すると、比較的広い舌が西へ入り、丘陵の間をさらに南へ奥まっている。この谷に営まれている水田は高内の字名で呼ばれているが、今回

の調査によりその谷の入口北側の山頂に1基の古墳が確認された。

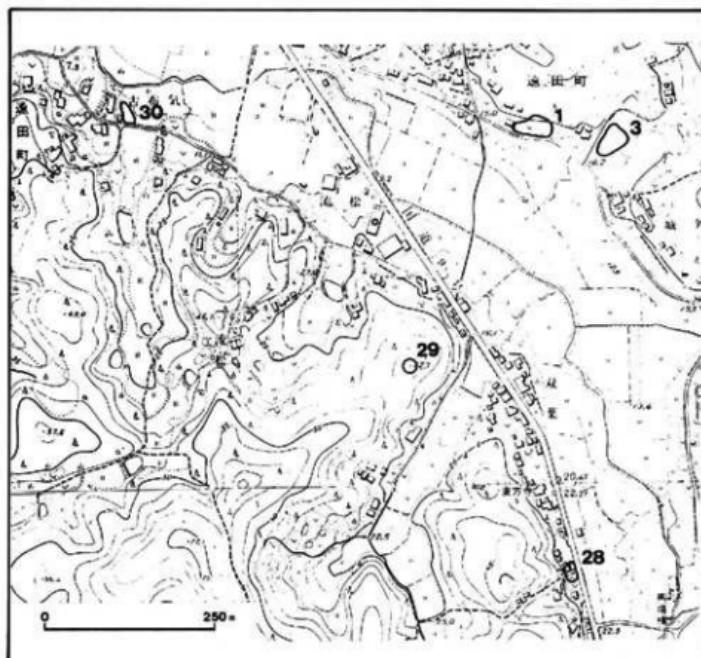
古墳は東へ伸びる丘陵先端の松林中に築かれ、標高は約4.7mを測る。高内の谷に面する斜面はかなり急峻だが、山頂は広い緩斜面となり、その最高部に立地する。中遠田の水田地帯と遠田川対岸の神山、城外、神明の各集落を見渡すことのできる好所である。

発見された古墳は円墳で直径8mあまり、比高約1mを測り、破壊を受けていない。

8. 寺田遺跡（第4図30） 益田市遠田町古布氣字寺田

下遠田の流松から古布氣の集落には丘陵の裾を市道竜田線が通っているが、遺跡は古布氣集会所の北約50mの市道沿い東側に位置する。標高7~8mあまりの南東向きの段丘上にあたり、現状は水田である。

遺物は須恵器片があった。壺の一部と考えられるが時期のわかるものではない。遺跡の実態は不詳で、今後の資料を待ちたい。



第4図 高内古墳周辺遺跡分布図

4. 大元古墳群測量調査

大元古墳群は大元集落の背後、別所溢と迫ノ溢に狭まれた南西に伸びる丘陵上に立地し、遠田川下流域に広がる水田地帯に臨んでいる。古墳群は、全長90m近い前方後円墳の1号墳とそれから約7m離れて1号墳の主軸線からやや南東にずれた位置に築かれた直径15mの円墳から成り、さらにその西の尾根続きに墳丘状の高まりも注意されている。

当古墳群については前年度に墳丘の主な部分の測量を終えているが、その規模及び築造方法を明らかにするために、さらに周辺部を取り込んだ地形測量を25cmセンターで引き続き実施した。⁽⁸⁾

まず、1号墳前方部の北にはかなり広い平坦面が存在する。これは周辺の地形に制約されながら北西に張り出す緩斜面で、その端は見かけの古墳裾部から約1.5m低くなっている。それから北は急斜面である。また、造出し状にふくらみが認められるくびれ部の北から後円部にかけては昭和58年山陰豪雨災害によって崩れており、特に後円部の崩壊は著しい。

一方、前方部の南側は山道をほぼ境に急峻な斜面となり迫ノ溢に落ち込んでいく。また、前方部の中ほどにあたる道の下の斜面にも約15mの幅で崩壊した箇所がある。さらに後円部の南は被害が最も大きく、中心から約10mのところから墳丘が崩れ落ち、くびれ部から幅30mにわたって押し出されたような状態で墳丘が広範囲にわたって損われており、危険な状況である。

後円部の東には四ツ辻があり、吉ヶ溢から登ってくる道と前方部南側を通って別所溢奥の権現に至る山道が交わり、さらに古墳群の北の草ヶ溢に向かう道も分かれている。四ツ辻の東はすぐに丘陵斜面となり南東の尾根筋へと続く。また、迫ノ溢から通じる道の東側の一帯には後世の耕作によるものと考えられる規則的な緩斜面があり、道を隔てた西側には墓地が存在する。

さて、今年度の測量は1号墳の前方部の北と南側、さらに後円部の南から北東にかけての古墳周辺部に及んだ。古墳自体大規模なため、いまだ不充分なものであるが、来年度はさらに2号墳の周辺及び後円部北東から北にかけての部分の測量を行い古墳群全体の測量図を完成させるとともに不備を補いたい。また、後円部を中心に埴輪等も採集されているが、これについても次年度にあわせて報告したい。

5. おわりに

今年度の分布調査は遠田川左岸の丘陵地を対象として実施したが、新たに発見された遺跡を含め8遺跡を確認することができた。このうち、吉ヶ瀬古墳（25）、辻遺跡（27）、茶屋床遺跡（28）、高内古墳（29）、寺田遺跡（30）が今回新たに発見された遺跡である。

さて、辻遺跡、茶屋床遺跡、寺田遺跡などの遺物散布地は、採集資料がわずかで図にたえ得る遺物はなかった。これらの遺跡については地道に資料を増していく必要があろう。
なお、茶屋床遺跡は、「全国遺跡地図一島根県一」等を参照すればすでに周知遺跡となっている二葉遺跡に含めて考えて良いのかもしれないが、両遺跡の位置や範囲を明確にできない現時点では一応別個の遺跡とした。

さらに、安養寺跡についてはこれまで国道9号線と市道原線の交差点近くにマークされてきているが、これは認証されたまま現在に至ったと考えられる。安養寺の地名が残るのは上遠田の今回確認した位置である。

以上の遺跡の他に、今年度の調査対象地域には消滅した尾堤古墳群、大山遺跡、森ヶ内遺跡なども含まれるが、特に後の2遺跡については遺跡地図にマークされている付近で聞き取りを行っても全く後づけることができず、位置的に混乱している可能性がある。これらについても、最終年度である昭和163年度に遠田町全域の分布調査を終了した段階で検討整理し、改めて報告することにする。

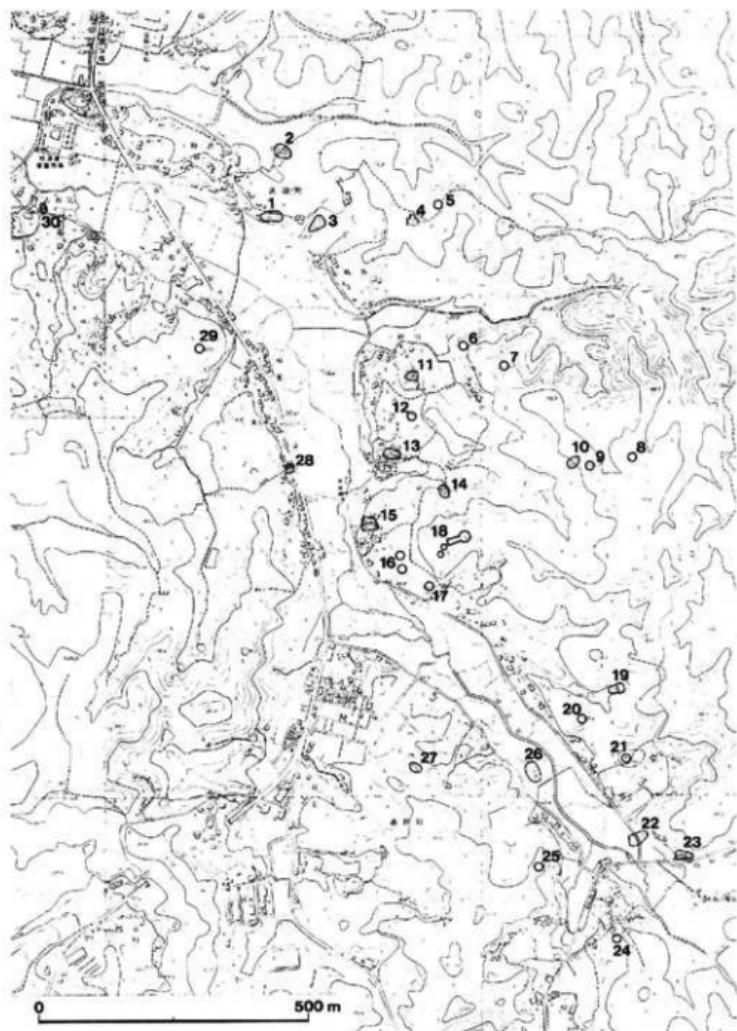
最終年度は鶴ノ鼻古墳群を含む遠田町北部と、遠田川左岸の市道中島・津田線以西の丘陵地、さらに、圃場整備をすでに完了している遠田川沿いの水田地帯についても踏査を行う予定である。また、大元1号墳の測量も継続して実施する計画である。引き続き多くの方々からご指導、ご教示を賜わりたい。

参考文献

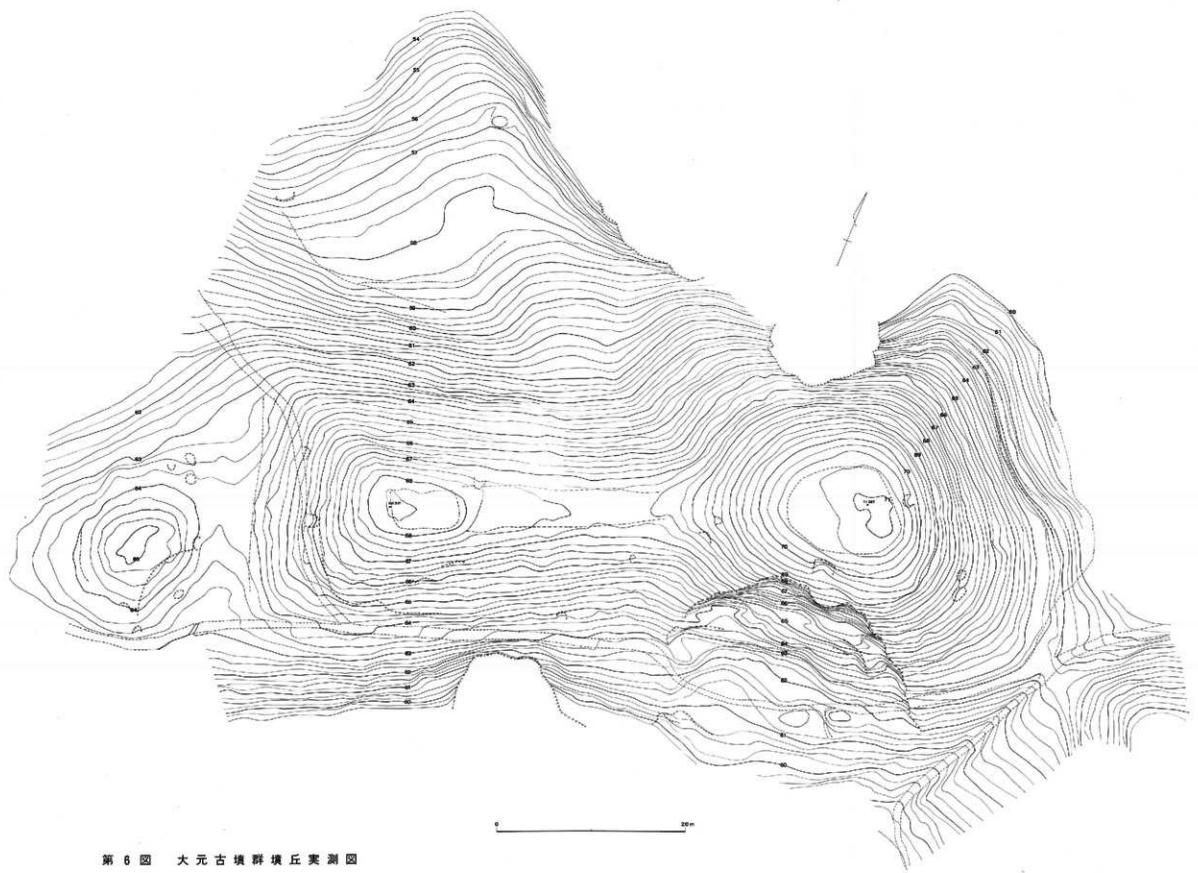
1. 1984 矢富熊一郎 『安田村発展史』上巻
2. 1963 島根県教育委員会 『島根の文化財』第三集
3. 1975 益田市誌編纂委員会 『益田市誌』上巻 益田市
4. 1978 文化庁文化財保護部 『全国遺跡地図一島根県一』
5. 1979 広田八穂 『中世益田氏の遺跡』
6. 1984 益田市教育委員会 『鶴ノ鼻古墳群発掘調査概報』
7. 1985 広田八穂 『西石見の豪族と山城』
8. 1987 益田市教育委員会 『益田市遠田地区遺跡分布調査報告書』

遠田地区遺跡一覧表

号	遺跡名	種別	所 在 地	概 要	備 考
1	神山遺跡	遺物散布地	益田市遠田町神山	須恵器片	
2	山城烟道跡	"	神出字山城塙	須恵器片 十師質土器片	新発見
3	宝珠庵道跡	"	城外	須恵器片	"
4	鐵城跡	城 跡	城外字塙	遠田城ともいう 郭2箇所 挖り切り2箇所	
5	康神塙遺跡	康神塙	城外	「享保九穂+背面金剛講中」 の銘あり	
6	北ノ平経塙	経 塙	神明字北ノ平	一字一石経塙	
7	木原古墳	古 墳	神明字木原	昭和56年度発掘調査 円墳(径 15m) 箱式石棺2基 消滅	
8	金堀1号墳	古 墳 ?	神明	昭和56年度調査 消滅	
9	金堀2号墳	" ?	神明	昭和56年度調査 消滅	
10	木原縄奥遺跡	遺物散布地	神明	須恵器片多数 痕跡か	新発見
11	神明北遺跡	"	神明	須恵器片	"
12	神明古墳	古 墳	神明	円墳(径10m)	"
13	神明南遺跡	遺物散布地	神明	須恵器片、土師器片	"
14	藏ノ段遺跡	"	大元字藏ノ段	須恵器片	"
15	平 遺跡	"	大元字平	須恵器片	
16	柳ヶ瀬古墳群	古 墳	大元字柳ヶ瀬	円墳2基(径6~7m)	
17	貝崎古墳	"	大元字貝崎	円墳(径10m) 壺形により半壇	
18	大元古墳群	"	大元字塙山	前方後円1基(全長98m) 円墳1基(15m)	
19	原ヶ瀬遺跡	?	寺坂	鏡1面、壺2個体が出土した といわれるが詳細は不明	
20	森ヶ内古墳	古 墳	寺坂字森ヶ内	円墳(径10m)	新発見
21	石仏古墳	"	寺坂字經塙	円墳(径10m) 鞋塙の可能性もある	
22	二反田遺跡	遺物散布地	寺坂字二反田	昭和58年度試掘調査	
23	安養寺跡	寺 院 跡	寺坂字安養寺	奈良時代	
24	杜山古墳	古 墳	黒石字桑ノ木	円墳(径7.5m)	
25	吉ヶ瀬古墳	"	黒石字吉ヶ瀬	円墳(径10.5m)	新発見
26	三反田遺跡	遺物散布地	黒石字三反田		
27	辻 遺跡	"	双葉字辻	古錢	新発見
28	茶屋床遺跡	"	茶屋床	須恵器片	"
29	高内古墳	古 墳	高内	円墳(径8m)	"
30	寺田遺跡	遺物散布地	古布氣字寺田	須恵器片	"



第5図 速田町遺跡分布図



第6図 大元古墳群墳丘実測図

図 版





安養寺跡



三反田遺跡



遠 景



全 景



遠 景



全 景



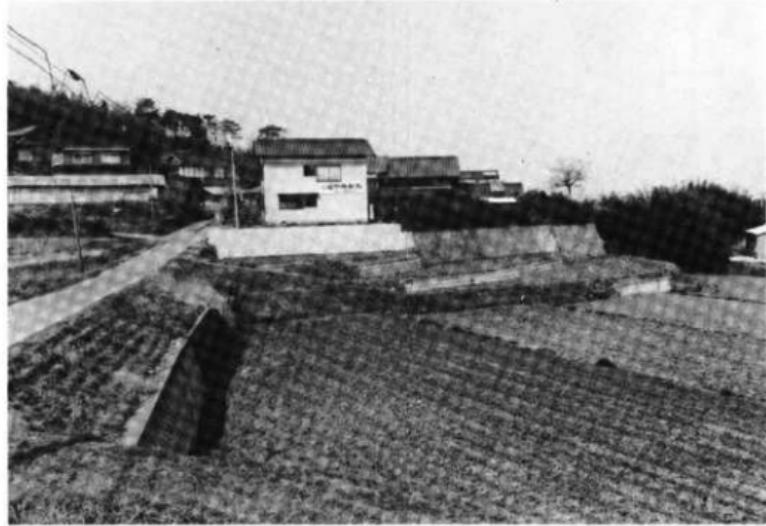
辻 遺 跡



茶 屋 床 遺 跡



高 内 古 墓



寺 田 遺 跡

図版 6
大元古墳群



遠 景（南から）



全 景（前方部から）



前方部北側平坦部



測量風景

益田市速田地区遺跡分布調査報告書Ⅱ（1987年度）

発行日 1988年3月31日

発行 島根県益田市常盤町1-1
益田市教育委員会

印刷 島根県益田市常盤町7-3
益田タイプ株式会社